

水産の窓

茨城県沖におけるマダラ0歳魚の加入について

水産試験場で夏季に実施した底魚資源調査（以下、夏季調査）において、マダラの0歳魚が採捕されましたので、今年の加入状況についてお知らせします。なお、夏季調査の詳細は水産の窓4-No.16「底魚資源調査（夏季）を実施しました」に掲載しております。

1. マダラの生態

マダラは北部太平洋沿岸に広く分布し、太平洋側では茨城県が南限とされています。主な生息水深は40～550mで季節的な浅深移動を行うことが知られています。本種の産卵は冬季に行われ、宮城県の仙台湾や青森県の八戸沖に産卵場があると考えられています（図1）。

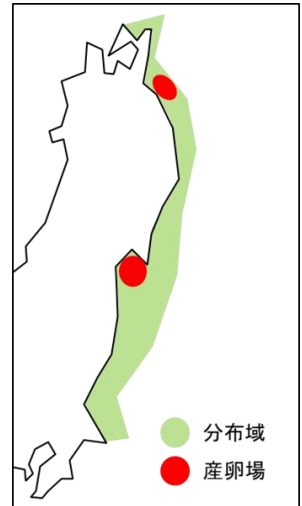


図1. マダラの分布と産卵場

2. 0歳魚の加入状況

今年の夏季調査では、北茨城沖から鹿島沖にかけて全長8～15 cm台のマダラが採捕されました（図2）。本種は1歳で約20 cmに成長するため、採捕された個体は0歳魚であると考えられます。本県海域におけるマダラの推定現存尾数は令和元年以降2万尾未満で推移しておりましたが、今年の現存尾数は約30万尾と推定されました（図3）。10万尾を超える0歳魚の加入は平成30年以降4年ぶりとなります。

水産研究・教育機構から得た情報によると、今年は仙台湾におけるマダラの加入状況が良かったことから、夏季調査で採捕された小型のマダラは、東北由来の群れの一部が、親潮に乗って茨城県沖に加入したものと考えられます。

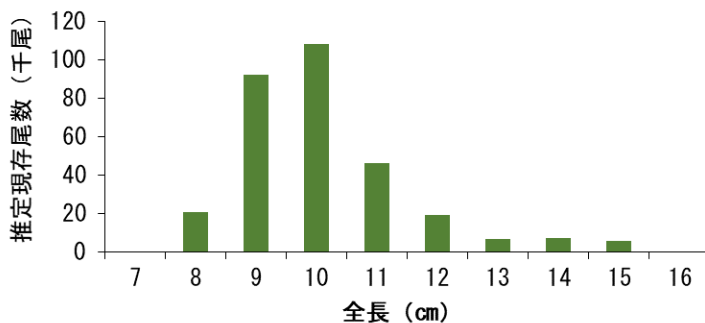


図2. マダラの全長別推定現存尾数（夏季調査）

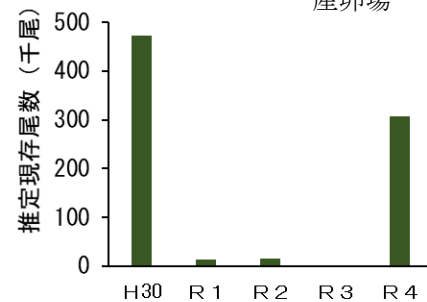


図3. マダラの推定現存尾数推移
 ※R3は採捕なし

3. マダラ（0歳魚）の成長

9月に久慈沖で実施した着底トロール調査でもマダラの0歳魚が採捕されました（図4）。夏季調査時（7、8月）と比較すると、9月の全長組成は12～16 cm台が主体となり、成長が進んでいると考えられます（図5）。水産試験場では今後のマダラの成長や資源動向にも注目していきたいと思っております。

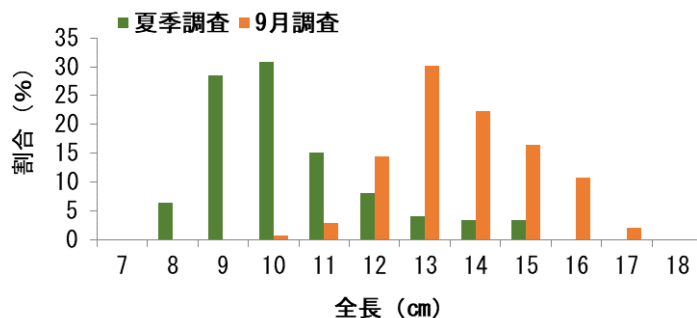


図5. マダラの全長組成（夏季調査と9月調査）



図4. 9月に採捕されたマダラ0歳魚

（水産試験場 定着性資源部）

【次回予告】 令和4年10月28日発行の水産の窓は「令和4年10月の海況と今後の予測」を予定しています。